

人吉高等学校五木分校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標
<p>ア 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人間の育成を図る。</p> <p>イ 豊かな自然環境の中で、豊かな人間性と健康な体を育み、自信と誇りをもった澁刺とした生徒の育成を図る。</p> <p>ウ 小規模校としての特長を最大限に生かし、生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、特色ある学校づくりを実践する。</p>

2 本年度の重点目標
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <p>1 「学びのUD化」を軸とした授業改革に取り組み、基礎学力の充実と教科指導力の向上を図る。</p> <p>2 生徒指導の徹底を図り、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>3 進路指導の充実を図る。</p> <p>4 多様な生徒への対応に努める。</p> <p>5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。</p> <p>6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実。 ・分校ニュースの発行。 ・「開かれた学校」を地域へ展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを週3回以上更新し、アクセス数が一日平均80を超す。 ・生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースの毎月発行、保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校運営協議会への配付とホームページへの掲載。 ・学校行事等を地域へ発信。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事が減ったが随時ホームページを更新し、ページビューは1日100件以上と大幅に伸ばすことができた。 ・4～5月は、休校のため全ての行事が中止され、分校ニュースも発行できなかった。しかし、6月以降は発行を再開し、地域への情報発信ができた。
		ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献のための環境美化活動の実施。 ・地域の交通安全運動の協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施(学期に1回以上、年5回以上を目標)。 ・タッチ運動への参加協力。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査後に村内ごみ拾いを実施した。年度初め・夏休みはコロナ禍で実施できず4回の実施であった。豪雨被害ボランティアに数名の自主的な参加が見られた。 ・コロナ禍でタッチ運動が中止になり参加できていない。
		五木秀麗会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会、保護者懇談会等を通じた連携。 ・保護者の協力を得ながら運動会等の各種行事の成功。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会役員との密な連絡。 ・日頃から担任と保護者間の密な連絡、相談等を通し、良好な協力関係の構築。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で秀麗会総会が開催できず、書面決議となった。72%の回答があった。 ・役員会で話し合いの結果、長距離走大会の炊き出しに代えて、弁当が配付された。
		地域に密着した教育活動の充実	地元保育所・五木東小学校・五木中	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回保小・中・高合同大運動会の円滑な運営と 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元保育園・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制の構築と連携。本年 	A

		学校との合同事業の充実	成功。 ・小学校や中学校との交流、合同研修会や行事の充実。	度は五木中学校が担当校。 ・救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。	・感染症防止の観点から救急講習は中学校との合同実施はできなかったが、防災教育は合同で開催できた。
		地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	・職員の中学校訪問の取組の充実。 ・令和3年度入学者数2桁を目標。	・全職員で各中学校との連絡体制を密にする取組の展開。 ・体験入学及び学校紹介DVDの内容の充実とマスコミ等を活用したPR。	B ・感染症対策の観点から学校PRのための中学校訪問は自粛したが、生徒の現状については随時中学校と情報共有を行った。 ・体験入学の実施及び自作の学校紹介動画を作製し、HP上にも公開した。 ・コロナ禍のためマスコミへ行事取材を促すことは難しかった。
		五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	・警察と連携した交通安全指導等への参加。 ・消防署と連携した、救急法講習や防災教育の実施。 ・分校独自の教育活動の展開。 ・年に10週あいさつ運動の実施。	・五木校区学校地域づくり協議会、五木村人権教育推進協議会、五木村青少年育成会議への参加。 ・五木村で行われる交通安全運動、社会福祉協議会の福祉祭、駅伝大会等への生徒会を中心とした積極的な参加。 ・中学校との連携を密に図り関係機関との調整を円滑に実施。 ・地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を構築。	B ・五木校区学校地域づくり協議会、五木村人権教育推進協議会、五木村青少年育成会議に職員が参加した。 ・交通安全運動や駅伝大会等の五木村の行事がコロナ禍で軒並み中止となり、参加できなかった。 ・小中学校の文化祭等に五木分校の生徒作品を貸し出す等の連携を行った。 ・定期考査最終日には全校生徒によるボランティア活動、毎月初めのあいさつ運動等、主体的な活動ができ、五木村活性化の一翼を担った。
	業務改善 働き方改革	職員の多忙化解消と本来の業務に割く時間の増加	・職員の生産性の向上。 ・文書管理、データ管理の効率化。	・学校改革推進委員会での共通ルール作成。 ・文書管理、データ管理に関する職員研修の実施。 ・OJTの推進。	A ・学校改革推進委員会で新たなルールを策定し、データ共有を進めることができた。 ・見通しをもって文書処理業務に当たることができる態勢を整えた。
学力向上	教育課程	教育課程の検討実施	・新教育課程の編成・実施と検討。 ・社会に開かれた教育課程、カリキュラムマネジメントにおける教科横断的授業の検討。	・教育課程検討委員会を実施し将来のビジョンに関する検討と進路指導體制の強化。 ・進路指導と連携した進学に対応できる教育及び職業教育の指導計画の推進。	A ・教育課程検討委員会を実施し、新学習指導要領への移行を視野に、就職や進学等、進路希望の多様な本校生徒の実態に即して来年度からの教育課程を再編成するとともに、教育課程に即した教職員の配置の最適化を行った。
	基礎学力の定着	学校設定科目「ステップアップ」の充実	生徒間の向上心の高揚を図り、以下のような昇級を目指す。 1年・・・7段	・全学年を3段階の習熟度別グループに分けTTによるきめ細かい指導を行い、振り返り学習を適宜導入する。	B ・生徒の学力差があるため、各学年の目標とした昇級数は完璧に達成されたわけではないが、生徒間の向上心の高揚を図り、学習への意欲を高めることはできた。

			階昇級 2年・・・6段 階昇級 3年・・・5段 階昇級	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部会における問題の難易度等の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1級以上の合格者に対して問題の難易度を見直し、新たな「昇段」問題を作成し実施した。
授業の充実	家庭学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の課題(「日々の課題」等)の未提出者0。 ・考査前の学習時間(1日平均)を一年生は1時間半、二年生は2時間、三年生は2時間半を目標。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未提出者一覧が分かるようなシステムの構築と、教科担当と担任との連携の深化。 ・学年に応じた基礎学力向上を目指した質と量の課題の作成。 ・考査前学習会を有効に使った、学習時間の確保。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのUD化の取組みをもとに、各教科の連絡ホワイトボード(1学年のみ)を活用することで、課題の未提出者が減少した。 ・学習時間が昨年度より減少した。生徒たちが判断しつつ、自主的に課題に取り組めるようなシステムの構築が課題である。 ・考査前の学習時間(1日平均)は次の通りとなった。一年生・・・80分、二年生・・・99分、三年生・・・134分。
	「達成感のある授業」の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのUD化の視点を取り入れ、教員の授業の質を高める。 ・生徒の学力に応じた授業の工夫と個別指導を充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのUD化構築事業の推進及び、年2回の研究授業による授業力の向上。 ・各定期考査前学習会の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのUD構築事業を推進し、年2回の研究授業と、校外サポートチームと連携した研修を4回実施し、授業力の向上を図ることができた。 ・考査前の学習時間を確保することで、成績不振者数を昨年度よりも大幅に減らすことができた。
	授業時間の確保	学校行事の精選。	行事の内容と期間の見直し。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による休校があったが、行事の見直し等を行い、ほぼ例年通りの授業時間を確保することができた。
	研究授業の実施と研究会・研修会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の年2回の実施。 ・校外の研修会への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業後の合評会の充実。 ・他校の公開授業や各種研修会への積極的な参加。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのUDを軸とした研究授業を予定どおり行い、教科の枠を超えて授業の質を高めることができた。 ・全職員が教科に係る研修会や公開授業等に1回以上は参加することができた。
キャリア教育	キャリア教育の充実	キャリアガイダンスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による進路学習の実施。 ・体験学習や外部における説明会等を取り入れた職業教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職への講話や、社会生活に向けた学習の実施。 ・地域の人的資源、物的資源の発掘とその活用に向けた教科横断的な指導計画の作成。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を迎えてのライフプランセミナーを新たに実施し、将来の生活に向けて、生徒の意識を高めることができた。 ・他の体験学習については、コロナ禍で実施できなかった。
	インターンシップによる就労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望や適性に合ったインターンシップ先の選定。 ・事前・事後指導の充実した活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生において職業興味検査の実施と、進路学習において仕事や資格を調べる機会の設定。 ・インターンシップ報告会の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職業興味検査は進路適性検査(学びの基礎診断)に変更した。 ・コロナ禍であったが事業所の協力でインターンシップを実施することができた。また、生徒各自がしっかりと振り返り、報告会でも立派に発表を行った。

		「総合的な探究（学習）の時間」における系統的な進路学習と体験学習の充実	・協働体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力の育成。	・協働体験学習は生徒が主体性を持って取り組めるように、上級生と下級生を混ぜた縦割り班で実施。	B	・全学年で協力して、野菜栽培を行い、コミュニケーション能力や働く力を養うことができた。また、1年生は班ごとに調べ学習を行い、ミニ五文祭で成果を発表することができた。
	個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	・進路希望の100%達成。	・進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた課外や面接指導の実施。 ・関係諸機関との連携を図るとともに、個別指導の充実。	A	・進路希望に合わせて、個別の添削指導等を行うことができた。 ・3年生の進路に向けての面接指導は、まず、外部講師に指導を依頼し、その後、全職員で個別面接指導を行った。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	基本的な生活習慣の確立	・自らの力で生活態度を向上させる態度の育成。	・「学習・生活の記録」の毎日の提出。 ・気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。	B	・学習・生活の記録により家庭の様子を理解し、面談に活用することができた。 ・家庭での基本的な生活習慣を育ませ、さらに自立心を養わせる必要がある。
		規範意識の高揚	・生徒会行事や学級活動等での集団での行動や月例集会講話を通して、規律ある行動ができる集団の育成。	・交通安全指導、整容や言葉遣い指導等を通して規範意識の向上とマナー、モラルの育成。	B	・整容面での軽微な違反や、級友間での些細なトラブルはあったが、個別に指導することで規範意識の喚起と改善が図れたが、他者への影響を考えない言動等は未だ見られるため、多くの機会から様々な方面からアプローチしていく必要がある。
		家庭との連携	・問題行動、トラブル等を未然に防止する態度の育成。	・アンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等による全職員の生徒の情報共有によりトラブルの未然回避。 ・保護者への啓発を行う場の設定と安心メールの有効活用。	B	・安心安全メールやホームページ、また電話や家庭訪問等できるだけ保護者と連携をとってきたが、保護者からはまだ相談できていないとの回答もある。トラブル等は見られないが、因子がないわけではないので、さらに連携をはかる必要がある。
生徒の主体的活動の充実	主体的な生徒会活動の推進	・全生徒の生徒会活動への参加。	・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例集会の生徒会による運営の充実を図る。	B	・コロナ禍で学校行事が少なくなったが、責任感を持って企画運営の係仕事に取り組む姿が数多く見られた。	
	部活動を通じた学校生活の充実	・部活動への積極的な参加。	・今年度から総合運動部・総合文化部に部活動を改変したため、生徒に積極的な参加を促すとともに、様々な体験を通して新たな目標を持たせる。	C	・部活動加入率は85%で、学校再開以降の練習や各種大会に参加できた。 ・学習との両立や、通学バスの便数により活性化が難しい。	
	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	・各学期1回以上、職員研修（生徒理解、特別支援等）の実施。 ・毎週の運営	・外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 ・生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の	A	各学期の生徒理解研修や支援会議等を開催し、共通理解を図った。またスクールカウンセラーとの連絡を密にとり、支援を深めた。

人権教育の推進			委員会での生徒の状況報告と実態把握。	状況を共通理解し指導に生かす。	
	生徒と教職員、生徒同士望ましい人間関係の構築		<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 ・各行事を通して、生徒の自尊感情の定着と互いを認め合うことのできる育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにテーマを設定し、わかりやすい授業実践。 ・学校行事では、生徒全員が互いに協力して作りあげる取組を重視した計画を立て、全職員で支援にあたる。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ五文祭での発表やグループ活動を通して互いに協力し合い、認め合う関係性を築いた。 ・他学年や異校種との交流活動の機会を設定し、各所で互いを思い遣り、協調して活動する姿が見られた。
	「命を大切にすることを育む指導」	取組をとおした生命の尊厳並びに他者の価値観を尊重する自尊感情の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期「自他の価値を尊重する意欲や態度」を育む授業やLHRの実施。 ・月例集会講話等で思いやりの心や強い心の醸成。 ・ボランティア活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科科目の授業で「命を大切にすることを育む心」についての授業を行い、職員も参観する。 ・LHR、総合的な探究(学習)の時間や月例集会等を活用し、日頃から「思いやりの心」について講話を行う。 ・ボランティア活動による自己有用感の深化。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特性に応じて学びのUDの観点から公開授業を行い、全職員が参加した。 ・月例集会等において人権や健康に関すること、思い遣りの心や強い心を育むこと等、本校職員の講話を毎回盛り込み、有意義な集会を実施できた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ発生「0」を目指す。 ・いじめにつながらない学校全体の土壌を作り上げる。 ・職員間における生徒の情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導と個別面談を行い、いじめの未然防止。 ・月例集会における生活態度等についての注意喚起。 ・生徒の小さな変化を見逃さず早期発見、早期対応、早期解決、再発防止のできる体制と環境づくり。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい雰囲気作りに努めたことで、悩みや困り感に対し迅速に対応し、未然防止を図ることができた。 ・毎学期のいじめアンケート調査では、いじめ件数ゼロであった。 ・軽微とはいえ相手に不快感を与える言動も見られるため、さらに推進していく必要がある。
		生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の周知と日頃の生徒間の行動観察と情報共有。 ・年3回の心のアンケートの実施と外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会の毎学期実施。 ・いじめ防止基本方針の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口を合格者説明会、入学式、1学期始業式、五木秀麗会総会で生徒保護者に周知徹底。 ・健康相談・教育相談担当、担任の日常観察及び運営委員会報告等、全職員が生徒の変化を掌握した上で適宜対処。 ・いじめ防止に関する職員研修の実施。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察やいきいき相談等を通じて、生徒の変化の早期発見に努め全職員で対応できた。 ・外部専門家を交えたいじめ問題対策委員会や生徒理解研修・日々の情報交換で職員がいじめに対する感性や危機意識の向上に努めた。
地域連携(コミュニティス	学校運営協議会をベースにした、地	統合型コミュニティスクールによる	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、地元小中学校、保護者、地域住民代表と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園、小学校、中学校の五木村との連携状況の把握と活動計画の作成。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・今年度からの学校運営協議会を計画的に実施することができた。 ・ミニ五文祭は学校運営協議

クール など)	域と一体 となった 連携体制 の構築	地域や関 連機関と の連携の 確立	し、計画的な 協議会の開催 。		会委員に来校いただき、生徒 に激励の言葉をいただいた。 ・学校運営協議会委員に観覧 いただく予定だった収穫祭は コロナ禍で中止した。長距離 走大会は沿道からの声援のお 願いとなった。
		防災教育 の充実	・学校防災年 間計画の作成 と防災教育の 充実。	・生徒の防災意識を 高める取組み計画と 生徒への地域連携の 重要性の意識高揚。	B ・6月の防災教育は予定ど おり行うことができた。11月 の避難訓練は、消防署から借 りた水消火器を使って職員 の指導で行った。
職員 研修	職員の資 質の向上	・不祥事 の根絶 ・人権意 識といじ めに対す る感性の 向上 ・学びの UD化に 向けた授 業改革	・不祥事0に 向けた規範意 識の高揚。 ・人権意識の 向上と職員朝 会での規範意 識の高揚を図 る。 ・学びのUD 化に向けた授 業づくりの意 識高揚。	・定期的な職員研修 と機会を捉えた職員 朝会での注意喚起。 ・言語環境を整え、人 権意識の高い職場環 境への醸成。 ・公開授業や研究授 業に向けた研修等の 実施と研究会等への 積極的な参加。	A ・職員研修や、折に触れ朝会 で不祥事防止や交通安全の注 意喚起を行った。 ・人権教育は生徒・保護者・職 員ともに高評価である。学校 評価アンケート結果に職員が 協力しながら取り組んだこと が結果に表れており、また保 護者の理解も得られていると 考えらえる。 ・学びのUDの研修と公開授 業、ICT活用研修など、指導 力向上に努めた。

4 学校関係者評価

- (1) 学校経営について
 - ・「分校に入学してきてよかった」と答える生徒の存在、「欠点者数が減った」という現状を聞いて、分校のがんばりを感じた。
 - ・合同運動会やミニ五文祭など卒業生のがんばっている姿や成長した姿を見ることができて、とてもよかった。主体性や自己肯定感を高められる機会として、とてもいい行事だった。
- (2) 学力向上について
 - ・学力の底上げに関して学校評価アンケートで昨年比で大きく伸びており、職員が手ごたえを感じていることがうかがえる。
 - ・来年度から五木村ではICT活用と英語教育に力を入れて取り組んでいく。ICT活用では小中学校との交流、英語教育では保育園から村民へ生涯学習として幅広く呼びかけていくよう考えている。分校とも連携して取り組んでいきたい。
 - ・図書館利用について、利用をさらに増やすために工夫を続けてほしい。
- (3) キャリア教育について
 - ・職員・生徒と比較して保護者の評価が低い。家庭であまり進路の話をしていないのではないかな。
 - ・受験に際して、履修科目によって受験が難しくなるなど、選択の幅が狭くなることがあった。今後、生徒たちがそのようなことがないように対応していただきたい。
- (4) 生徒指導について
 - ・職員・生徒と比較して保護者の評価が低いだが、思春期であることを考えると家の中での挨拶や掃除はこのようなものかもしれない。
 - ・スマートフォンの使い方について、今後とも、生徒たちがルールを守るよう未然防止のための指導をし、ルールを守っていない事案を把握した場合はすぐに指導するようお願いしたい。
- (5) 人権教育の推進について
 - ・謙遜を含んでいるとも思われるが、生徒の自己肯定感・自己有用感が非常に低い。全国的な傾向ではあるが、生徒が自信を持つような指導が必要。また、質問の表現を検討する必要があるのではないかな。
- (6) いじめの防止等について
 - ・学校評価アンケートで、生徒・保護者・職員ともに高評価である。療育の専門の方を外部専門家として招き、指導助言をいただいているような取組が功を奏している。
- (7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について
 - ・長距離走大会では、沿道で応援させてもらった。その時に生徒同士で応援し合う姿や卒業生が来て、後輩を応援している姿を見て、とても温かい気持ちになった。来年も沿道で応援し

たい。

- ・魅力的な講師がいるので、分校でもぜひ講演会を開いてほしい。
- ・来年度、五木村森林組合から、新入生に五木村の木で作った筆箱を入学祝として贈りたい。「五木村に来てよかった」と思ってもらいたい。

(8) 職員研修について

- ・職員の自己評価はいずれも高評価。学びのUD構築事業をすすめており、研修などを重ねていく中で生徒への指導、支援について見直す機会になった。

(9) その他

- ・防災に関して、分校の校舎は木造なので初期消火が大切。職員が使うことができないということがないように消火栓の使い方を確認しておいてほしい。

5 総合評価

(1) 学校経営について

学校行事については生徒・保護者・職員ともに高評価で、生徒にとって魅力あるものになっている。生徒・職員と比較して保護者の評価が少し低いのは、新型コロナウイルス感染症対策で中止・縮小になった行事が多く、保護者が参加する機会が減ったことが原因として考えられる。

働き方改革については、校務改革委員会の提案により、職員の困り感に即してボトムアップで業務の効率化を進めることができた。

(2) 学力向上について

欠点保有者の減少など学力の底上げが進んだ。学習習慣の確立に関しては生徒・保護者・職員ともに課題と感じているが、職員と生徒・保護者とで大きな意識差がある。小中学校の頃に比べれば勉強しているので、生徒・保護者は高い評価になっていると思われる。また、多様な進路希望に対応できるカリキュラム編成を検討していく必要がある。

(3) キャリア教育について

コロナ禍でインターンシップが中止となる学校が多い中、五木分校では地域の協力を得て実施することができた。また、ライフプランセミナーなどの新たな取り組みも行い、キャリア教育を推進することができた。今後、3年間、さらには卒業後を見通した進路指導體制の充実を図る必要がある。

(4) 生徒指導について

年間を通して早期対応や悩みごとの掘り起こしを大切にして未然防止に努めた結果、生徒指導上の問題はほとんど発生しなかった。素直に校則を守り行事等に積極的に参加しながら学校生活を送ることについては高く評価できる。

(5) 人権教育の推進について

学校評価アンケートで生徒・保護者・職員ともに高評価である。職員が協力しながらの、授業や様々な場での取り組みが結果に表れており、また保護者の理解も得られている。自己有用感を高める方策として、ボランティア活動を推進したい。

(6) いじめの防止等について

療育が専門の方に外部専門家としていじめ問題対策委員会に参加いただき、指導助言をいただいている。また昨年度から学びのUD構築事業をすすめる中で、受容的な教室の風土づくりに取り組み、生徒・保護者のアンケート結果からも、安心して通える学校づくりができていると評価できる。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

今年度から学校運営協議会分科会Ⅱ（五木分校関係）が設置され、保護者・地域の方々に学校経営に参画していただく体制ができ、様々な助言や協力・支援の申し出をいただいた。従来からの合同の学校行事だけでなく、中学校と連携して土砂災害時の避難マニュアルを作成するなど、地域連携をいっそう深化することができた。

(8) 職員研修について

学びのUD構築事業をすすめており、外部サポートチームを招いての研修や公開授業などを通して、生徒への指導、支援について見直す機会になった。その他、不祥事防止やメンタルヘルスケアなど、年間を通して計画的に研修を実施できた。

6 次年度への課題・改善方法

(1) 学校経営について

課題：学校行事への保護者の参加

方策：新型コロナウイルス感染症の状況により密を避ける必要がある場合、ICT活用による参加を検討する。

(2) 学力向上について

課題：学習習慣の確立

方策：現在の「学習・生活の記録」を活用させることにより、生徒の意識改革を図ると同時に、家庭との連携をいっそう進める。

(3) キャリア教育について

課題：卒業後まで見通したキャリア教育の推進

方策：三年間を見通したルーブリックを作成し、キャリア・パスポートを充実させる。

(4) 生徒指導について

課題：基本的生活習慣の確立

方策：現在の「学習・生活の記録」を活用させることにより、生徒の意識改革を図ると同時に、家庭との連携をいっそう進める。

(5) 人権教育の推進について

課題：生徒の自己肯定感、自己有用感の向上

方策：地域と情報交換を行い、地域へ貢献していることを生徒が実感できるボランティア活動を推進する。

(6) いじめの防止等について

課題：いじめをなくす取組の充実

方策：生徒会で自主的にいじめをなくす取組を実施する。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

課題：防災訓練の充実

方策：防消火避難訓練で消火栓の使用方法を確認する。今年度中学校と連携して作成した土砂災害時の避難マニュアルに従って、防消火避難訓練とは別に合同避難訓練を実施する。

(8) 職員研修について

課題：ICT活用の推進

方策：OJTと職員相互の情報交換によるデジタルスキルの向上、ICTを活用したアクティブ・ラーニングの在り方に関する研修を行う。